

小杉高校の取組みについて

(国の拠点類型：**多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保**)

富山県教育委員会 教育みらい室（高校教育充実強化担当）

小杉高校

(射水市三ヶ1520-1)

・ 総合学科 4 クラス／学年

・ 生徒在籍数

学年	男	女	計
1	4 5	1 1 5	1 6 0
2	4 1	1 0 7	1 4 8
3	4 8	9 8	1 4 6
計	1 3 4	3 2 0	4 5 4



【多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保】
柔軟な教育課程と学校外のリソースを活用し、ウェルビーイングな学びの場を創出

小杉高等学校
(全日制/総合学科)

- 生徒一人ひとりの**強み・関心の発見・伸長**や、主体的な進路形成につながる**柔軟な教育課程**の整備が求められている。
- 不登校傾向の生徒や特別な支援を要する生徒、外国人生徒など**多様な背景を持つ生徒への支援体制**が未整備。
 - ➡ **多様な背景を持つ生徒の主体的な学びの実現のため、「柔軟な教育課程の整備による余白時間の創出と自主活動の促進」、**
「多層的な支援体制の構築」などにより、柔軟な教育課程と学校外のリソースを活用し、ウェルビーイングな学びの場を創出する高校の
パイロットケースの創出・普及に取り組む。

人材育成の現状・課題

- 急増する外国人生徒や特別な支援を要する生徒への支援体制が未整備
- カリキュラム・オーバーロードを变革し、生徒の余白を確保
- 県立高校における個別最適な学びの提供が不十分

具体の事業内容

【拠点における主な改革目標】

- ①進路に満足している生徒の割合 R⑩ 80% R⑬ 90%
- ②「自主活動：ミラパス」の時間の学びが充実していると感じる生徒の割合 R⑩ 80% R⑬ 90%

【取組内容・創出するパイロットケース】

(教育改革の内容)

- ・教育課程の柔軟化と「余白の時間」による自主活動の促進
- ・AI・デジタル活用による個別最適な学びの推進
- ⇒ **ウェルビーイングな学びの場**を創出

(施設・設備の整備)

- ・次世代ラーニング・ハブ「ココ・テラス (COCO Terrace)」の整備
- ⇒ **外部専門人材**を活用した**多様な学びの拠点**の整備

【他校への普及方策】

- ・カリキュラム開発、多職種連携の円滑な運用フロー等に関する研修会の実施
- ・日本語指導カリキュラムのオープンソース化

【その他】

- ・地域連携コーディネーター、大学生や教員OB等による学習メンター、NPO法人等と連携し、**多層型学習支援プロジェクト**を展開

「ウェルビーイングな学びの場」
～余白の時間と学校外との連携～



実施体制

協力校	高志のあかり中学校 (令和9年4月開学) 上市高校、富山いずみ高校
主な連携機関 等	富山大学、富山県立大学、関係自治体、NPO法人等

目指す成果

- 生徒への**個別最適な学び**の提供と**余白時間**の創出
- 教育課程の柔軟化**やAI活用モデルの横展開
- 多様な背景を持つ生徒の社会的自立の実現
- 県全域の外国人生徒支援体制を底上げ

取り組みの概要

1 教育課程の柔軟化と「余白の時間」による自主活動の促進

(1) 自らの意思で未来を切り拓く、「余白の時間」創出

卒業に必要な修得単位数を減らし、一斉授業ではない「余白の時間」を創出

(2) 「ミラパス」(自らの意思で未来を切り拓く時間)での多角的な自主活動の充実

学校設定科目など単位認定を行う科目のほか、

- ・ 大学生等を学習メンターとした地域連携学習支援活動「TERAKOYA」：**生徒の習熟度に応じた個別伴走型学習支援**
- ・ 外国人生徒のための日本語教室
- ・ 不登校生徒の支援
- ・ 異学年学習交流、部活動、多文化交流、文化活動

など、校内の枠を超えた多様な選択肢のなかから、**生徒が主体的に選択**

→主体性、協調性、コミュニケーション能力などの非認知能力も育成

(3) 地域連携課題解決型学習の展開

地元企業や行政機関等とのパートナーシップのもと、実社会の課題を解決する伴走型の学習を展開

取組みの概要

2 多様な学びの拠点「ココ・テラス」の整備

学習支援、協働学習、地域との連携拠点を校内に新設

①地域連携フロア・・・TERAKOYA、地域連携課題解決型学習のためのコワーキングスペース
地域交流・文化活動等のための多目的ホール

②多様な学びフロア・・・日本語学習教室、特別な支援を要する生徒、不登校生徒支援のためのパーソナル・ルーム等

3 AI・デジタル活用による個別最適な学びの推進

AI教材（アダプティブ・ラーニング）の導入、生徒個々の習熟度に応じた個別最適な学びを提供

4 その他

- ・外国人生徒支援のための教材開発や指導体制の構築
- ・遠隔教育システムの活用
- ・外部人材や専門人材を活用した多層的な生徒支援 等

取組みの概要

4 推進体制

(1) 小杉高校多様な学び推進プロジェクト会議

学校、県教委、大学、地元産業・行政関係者等による定期的な会議

→ 課題解決型学習、交流活動、学習支援等について、計画的・継続的に協議

(2) 地域連携コーディネーター、学習メンターの配置

地域連携コーディネーター：地域活動の計画立案、大学・企業等との調整 等

学習メンター：大学生や教員OB、地域住民等による学習支援・進路相談

5 取組み・成果の他校への普及

協力校との連携・協働

高志のあかり中学校、上市高校、富山いずみ高校

- ・オンライン教育を活用した相互履修制度の検討、日本語指導教材開発
- ・教員研修会、生徒主体の成果発表イベント等 等

6 改革の目標

指 標 例	現状（R7）	R10目標	R13目標
個々の習熟度に応じたAI教材の活用	—	80%	90%
卒業時点における進路未決定者の割合	0%	0%	0%
「ミラパス」の時間の学びが充実していると感じる生徒の割合	—	80%	90%

7 目指す成果

- ・ 生徒への個別最適な学びの提供
- ・ 教育課程の柔軟化、AI活用モデルの横展開
- ・ 多様な背景を持つ生徒の社会的自立の実現
- ・ 外国人生徒支援体制の底上げ 等